いわて未来研の発足と活動

設立の趣旨と経緯

発　足：平成 20 年 6 月 26 日
法人化：平成 23 年 9 月 28 日

1　設立の趣旨

私たちにとって、国・県・市町村の行政が行う政策は、生活に直結する大変重要かつ切実な事柄であり、また、政治、経済は、その背景にあって、具体的な政策を左右する位置にあります。

設立総会風景（H22. 6. 26）

私たちは、普段から、こうした大切な事柄について関心を高め、行政任せ、政治家任せではなく、良く見、聞き、学び、時に意見を述べ、適切なチェック機能を果たしながら、豊かな郷土づくり、まちづくりそして生活の向上に結び付けていかなければなりません。

また、老若男女を問わず、このような事柄についての個々人の研鑽を助ける趣旨で、あるいは学び、あるいは意見交換を行なう場が確保されていることが望まれます。

しかし、現状は、正規の学校教育の場やカルチャースクールなどの場はあるものの、政策や政治経済の課題について総合的・包括的な形で、また、住民の目線に近い形で研究し、意見交換し、人材育成などを行なう場が確立されていない状況にあります。

設立総会後の講演会

よって、私たちは、「いわて未来政策・政経研

究会(略称:いわて未来研)」を設立し、上述した課題意識を共有する意欲ある方々を募り、特定非営利活動団体として、一定の活動を行なおうとするものであります。

活動の内容及び目標は、現在及び未来の政策や国・地方を通じた政治経済についての調査研究を行ない、その成果を生かした意見交換・発表さらには人材育成、行政機関等への要望・意見提言などを行なうものであり、これらを通じて健全なまちづくりを推進し、広く公益に寄与しようとするものであります。

2　NPO 法人申請に至るまでの経過

いわて未来政策・政経研究会は、上記趣旨のもと平成 22 年 6 月 26 日に任意団体として設立され、普及促進事業、会報発行事業、講演会、政治家等との意見交換会などの事業を滞りなく実施し、一定の成果を上げてきました。

この会は、設立の当初から、特定非営利活動促進法に適合する活動を行ない、同法による法人格の取得を目指すことを表明してきましたが、この度一定の実績をもとに活動をより強化するため、法人化を具体的に進めることとし、設立認証申請に至ったものであります。

3　会長挨拶(いわて未来研会報創刊号(H22.8.20)会長挨拶から)

いわて未来研の会員の皆様いかがお過ごしですか。この会報発行の頃は、涼しさが増していると思いますが、夏の暑さに負けることはなかったでしょうか。

早いもので、いわて未来研(いわて未来政策・政経研究会の略称)が発足して、早くも 2 ヶ月が経とうとしております。振り返りますと、政策や政治をより身近なものにし、若手人材を育てながら、まちづくりに役立てる場を設けようと呼びかけを始めたのは、奥州市長の任期満了の日(H22.3.18)から間もなくでした。

設立総会への祝辞を寄せて頂いた北川正恭早稲田大学マニフェスト研究所長と

いつか、市長職を離れた時に始めようと考えていたことの、いわば前倒しでした。これまで皆様に育てていただき、市長の大役を勤めさせていただいた、私の経験や知識そして熱い想いを、今後の地域づくり、人づくりに役立てることが出来れば、という考えでした。

幸い、水沢自動車学校の星野理事長のご配慮で同校の一室を拠点とすることができ、弾みがつきました。設立発起人を引き受けていただける方々を募りながら、4 月 27 日には 19 名の設立発起人の承引のもと設立発起人準備会を開催しました。地元新聞の報道も加わり、会員の募集も順調に進みました。それでもこの頃は、100 名程度の会員と見込んでいたのでした。

5 月 15 日には、設立発起人として市内外から 24 名参加いただく中で、設立発起人会を開催し、設立総会で審議する役員人事、事業計画、収支予算の案を定めることが出来ました。その後、設立発起人の方々始め、関係者のご支援の下、猛スピードで、会員獲得と、設立総会準備に取り掛かりました。

6 月 26 日は、快晴でした。これまでの苦労が実る日でもあります。会員は、既に 239 名(個人・法人)に達し、ご協力いただき、受領した会費も 100 万円を超えるまでになっていました。60 名を超える方々の出席の下、会議は、厳粛の中にも和やかに進み、銚子市民からの美しい花の提供もあり、まさに華やかな雰囲気の会議ともなりました。議案の審議が終わりホットする間もなく、野平市長さんの講演が 80 名を超える参加の下、熱っぽく始まりました。野平市長のこの会への熱い支援の想いが伝わって参りました。その後の懇親会が終わるまで、気が抜けなかったのですが、全て終了したとき、改めて、皆様のご支援・ご協力に感謝するとともに、期待に応えなければならないという責任感で、まさに身の引き締まる思いでした。

花束を手にする講師の野平匡邦銚子市長

もとより会の拠点は、奥州市にあるわけですが、活動の視点は、オール岩手、オールジャパンをも意識し、市内のみな

らず、盛岡・東京方面のネットワークを生かしながら、全国にも注目される取り組みをして参りたいと思います。また、会員の方々のみならず、広く住民の皆さんに参加を呼びかけながら、政策・政治への理解のレベルアップや未来を見据えた斬新なまちづくりに貢献して参りたいと考えております。

皆様のさらなるご指導・ご協力をお願い申し上げ、また、ご健勝とご活躍をお祈りしながらご挨拶といたします。

会長　相原　正明

十年の歩み

✪ いわて未来研創立十周年記念式典(R2. 11. 28)における式辞 ✪

本日ここにいわて未来研創立十周年記念式典を挙行しましたところ、師走に入るお忙しい時期に、また、新型コロナウイルス問題で世が落ち着かない中、小沢奥州市長さん始めご来賓の方々、役員、会員の皆様方に多数ご列席頂き、盛大に開催出来ましたことを、まずもって御礼申し上げます。また、本式典におきましては、長年当研究会の活動をご支援いただきました 9 名の方々に感謝状を贈呈申し上げますとともに、長年会活動に尽力された 35 名の会員を表彰させていただきます。

会が充実した形で十周年を迎えられましたのは、只今申し上げました方々はもとより、多くの会員や支援される方々のお蔭であり、この式典に臨むに当たり、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

振り返りますと、今から 10 年前の平成 22 年 6 月 26 日に水沢公民館に

60 余名が出席し、全国に所在する会員 239 名によるいわて未来研が発足したのであります。

その設立の趣旨は概ね次に申し上げる通りであります。

「私達にとって、国・県・市町村が行う施策は、生活に直結する大変重要かつ切実な事柄であり、また、政治・経済は、その背景にあって、具体的な政策を左右する位置にあります。

私達は、普段から、こうした大切な事柄について関心を高め、行政任せ、政治家任せではなく、良く見、聞き、学び、時に意見を述べ、適切なチェック機能を果たしながら、豊かな郷土づくり、まちづくりそして生活の向上に結び付けていかなければなりません。また、個々人の研鑽を助け、あるいは意見交換を行なう場が確保されていることが大切です。

しかし、現状は、このような政策課題について、総合的・包括的な形で、また、住民の目線に近い形で、研究し、意見交換し、人材育成などを行なう場が確立されているとは言えない状況にあります。

よって、私たちは、いわて未来政策・政経研究会を設立し、意欲ある方々を募り、効果的に活動を行なおうとするものであります。」

設立の目的はこのようなものでありました。

具体的な活動の内容は、現在及び未来の国や自治体の政策について調査研究を行い、その成果を生かした意見交換・発表、人材育成を行なうこと、さらには行政機関等への意見・提言を行なうことなどであります。そして、これらを通じて健全なまちづくりを推進し、広く公益に寄与しようとするものであります。

このような団体は県内にはほとんど無く、全国的にも数少ないものであり、まさに「自分たちの前に道はなく、自分たちの跡に道ができる」想いでありました。恐れず、挑戦者の姿勢で、会員の支えのもと一歩ずつ進めて参ったところであります。

小沢奥州市長に感謝状を贈呈

毎年 4 回発行の会報では、設立の趣旨を常に念頭に置きながら、最先端

の課題を見据え、内容の充実に取り組みました。

年 2 回の講演会と年 1 回の意見交換会では各界の一流の人材のお力をお借りして研鑽に務めたところであります。

会活動の看板ともなりました、いわて平成松下村塾は、7 期を数え、7 市町村の 18 人を卒塾生として世に送り出し、その中から数人が政治家として活躍されるという成果を挙げることも出来ました。

また、市議会議員選挙立候補予定者の政見を聴く会については、全国でもほとんど例がない中、関係者の理解と協力の下、奥州市議選で 2 回、花巻市議選で 1 回、盛岡市議選で 1 回の実績を上げ、市民の政治意識の向上に寄与することができたと考えております。

更に行政機関、政党等に対する政策意見提言は、8 年間に 8 回行い、合計 123 項目に及びましたが、国や自治体の政策と住民の願いを結びつける大きな力となったものと自負しております。

これらの活動に際しましては、常に報道機関に積極的に働きかけ、記事に掲載していただいたところでありますが、会の目的達成のために大きなお力添えを頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げる次第であります。

この 10 年間、会報発行は一度も休むことなく、他の事業も基本的に全て計画通りに達成致しました。会員数は常に発足時の数を上回って推移し、財務会計上も十年で相当額の繰越金を積み立てるなど、NPO 法人の体力としても強化され、順調な歩みを続けることができました。

これもひとえに、役員、会員の方々始め、ご支援いただきました多くの皆様のお蔭であり、改めまして心から深く感謝申し上げます。

この十周年を契機とし、節目の大きな橋頭堡と認識し、新しい時代の新しい課題に向かい、更に前進したいと決意を新たにしております。

皆様の今後一層のご指導・ご鞭撻、更にはご支援を切にお願い申し上げる次第であります。

終わりに、会員の皆様はじめ関係の方々のますますのご活躍とご多幸をお祈りし、当研究会の限りない発展を祈念して、式辞と致します。

令和２年 11 月 28 日

特定非営利活動法人 いわて未来政策・政経研究会

会長 相原　正明

✪　いわて未来研十年の歩み－概要　✪

NPO 法人いわて未来政策・政経研究会

十年の歩み概要(R2.11.28)

1　設立の趣旨

私たちの生活にとって、重要で身近な政策や国・地方の政治経済について調査研究・論議し、現在だけではなく、未来のあるべきまちづくりの

市議選政見を聴く会

政治家等との意見交換会

姿を探求します。そして、その成果を広く情報発信し、住民に還元しながら、次代を担う人材育成に役立て、さらには、関係機関や団体等へ提言するなどの活動を展開します。これらの活動により、国と県と市、あるいは地域の発展やまちづくりに貢献し、ひいては住民福祉の向上に寄与することを目的とします。(H22.6.26 設立。H23.9.28NPO 法人化)

2　名称　特定非営利活動法人　いわて未来政策・政経研究会

（略称：いわて未来研）

3　事務所　〒023―1131　岩手県奥州市江刺愛宕字橋本 119 番地

TEL & FAX　0197-35-2134

E-mail:miraiken@pon.waiwai-net.ne.jp

URL:http://iwate-miraiken.sakura.ne.jp

※　設立後 3 年間は、奥州市水沢の水沢自動車学校内

4　事業内容（十年の歩み概要）

(1)　会報の発行

ア　平成 22 年 8 月に創刊号が 300 部発行された。以後、四半期ごとに年 4 回発行され、一度も休刊することなく令和 2 年 10 月には 42 号に達した。

イ　年間事業計画を定める際に、各号ごとの中心テーマ(例えば産業・経済、医療・福祉など)を設定し、テーマに即した論壇、インタビュー等の編成とした。

ゥ　会報は、会員のほか、県や市の政策担当部門、県立図書館及び奥州市立図書館(閲覧用・保存用)、報道機関等に配付した。

(2)　講演会、シンポジウムの開催

ア　毎年 2 回程度、各界の著名人をお招きして講演会を開催し、終了後、講師を交えて交流会(懇親会)を催した。

いわて平成松下村塾

イ　講演会に併せて、東日本大震災からの復興、農業政策における減反廃止問題などについて、シンポジウムも行った。

(3)　政治家、行政政策責任者等との意見交換会

毎年 1 回、国会議員、県議会議員、国・県の政策担当職員等との意見交換会を行った。最初に講話をいただき、その後意見交換という形で実施した。その成果は会報等で発表した。

(4)　いわて平成松下村塾

ア　次代の地域の発展を担う人材の発掘と育成を目的とする塾を開設

し、運営した。塾生は公募し、首長経験者・地方議会議員・大学講師等の方々が講義・指導した。

イ　第一期(H23.7－9 月)7 名、第二期(H24.1－3 月)4 名、第三期(H25.1－3 月)2 名、第四期(H25.7―9) 2 名、第五期(H28.1－3 月)1 名、第六期(H29.11－12 月)1 名、第七期(H30.9－11 月)1 名が卒塾、計 7 市町村の 18 名が卒塾した。

ウ　内容としては、歴史・国家・地域観、政治・政策課題への取組み方やマニフェスト(公約集)の作成手順などに加え、後援会の運営や資金面など選挙実務、演説の仕方等を指導した。更に、立志研修(志の練磨・課題討議)を行った。

エ　卒塾生の中から、H26.3.9 の奥州市議選で 2 人が初当選した。

(5)　行政機関、政党等への政策・意見提言活動

ア　平成 25 年度から毎年、行政機関、政党等への政策・意見提言を行うこととし、およそ半年かけて会員から提言案を求め、理事会を中心に検討・協議を重ね、とりまとめを行った上で提言した。

イ　提言項目は、毎年 13～21 件であり、内容としては国、県及び市町村の政策的な課題であった。

ウ　提言先は、担当大臣、岩手県関係国会議員、岩手県知事、岩手県議会議長、岩手県教育委員会教育長、岩手県広域振興局長、岩手県市町村長、奥州市長及び奥州市議会議長、各政党本部代表及び県支部代表であり、訪問又は文書送付により提言した。

(6)　市議会議員選挙立候補予定者の政見を聴く会の実施

ア　知事選、市長選のような首長選に関しては、青年会議所等により立候補予定者の公開討論会が行われているが、市議選についてはほとんど行われていないので、選挙民が市議選についても同様の機会を持つことが適当と考え、実施した。

イ　奥州市議選について平成 26 年 2 月、平成 30 年 2 月に実施した。このほか、花巻市議選について平成 26 年 7 月に、盛岡市議選について平成 27 年 7 月に実施した。

ｳ　平成 30 年 2 月の奥州市議選の際は、当日会場に出向けなかった有権者のために、いわて未来研のホームページから録画視聴できるように措置した。

(7)　会員等親睦交流事業の実施

毎年 1 回、会員等親睦交流事業として、岩手県南地方の観光地や文化施設等を借り上げバスで回り、研鑽を深めるとともに昼食懇談会で交流を深めた。

(8)　報道機関への協力要請

会の活動成果を広く住民に還元するため、報道機関に対する取材等の協力要請を積極的に行った。

設立総会(H22.6)

設立総会(H22.6)

看板設置式(H22.8)

5　会員及び会費(発足以来同一)

正会員(総会の構成員)

会費　・　個人　年 2 千円　・　団体(法人、事務所等)　年 2 万円

賛助会員(会報をお送りし、講演会等のご案内をします。)

会費　・　個人　年 1 千円　・　団体(法人、事務所等)　年 1 万円

6　役　員(令和 2 年度現在)

会　長　相原　正明(江刺:初代奥州市長)

副会長　星野　義雄(水沢:自動車学校経営)　千田　敏彦(前沢:福祉専門家)　岩渕　正力(胆沢:俳人)　塚本　康雄(衣川:地域起こし活動家)　杉澤　敏明(雫石町:町議会議員)

理　事　岩渕　典仁(一関:市議会議員、卒塾生)　及川　佐(江刺:市議会議員、卒塾生)　菅野　博典(江刺:県議会議員、卒塾生)　菊地　玲(江刺:会社員、卒塾生)　紺野　亮幸(江刺:リンゴ農家)　佐藤　晃一(衣川:会社役員)　佐藤　千幸(金ヶ崎

町：町議会議員）　鈴木　雅彦（前沢：前市議会議員）外川　昌子（江刺：ピアノ教師）　福田　喜（胆沢：畜産農家・元 JA 役員）　星　　正（水沢：元市公社職員）　柳橋 好子（滝沢市：滝沢市議会議員）渡辺　清文（衣川：地域エネルギー事業家）

監　事　千田　幸雄（水沢：元町内会役員）　葛西　久雄（盛岡：元銀行員）

顧　問　青木　英二（東京都：目黒区長）　安藤　厚（盛岡市：元県教育委員長）　柿崎　喜世樹（山形市：弁護士）　本郷　孔洋（東京都：税理士法人グループ会長）

7　会員数

発足時（平成 22 年 6 月）　239 名

現在（令和 2 年 11 月）255 名

正会員　個人 164　団体 25 法人等

賛助会員　個人 64 名、団体 2 法人

合計 255 名

親睦交流会(H22.9)

車座トーク(H22.10)

政党代表者との意見交換(H24.3)

政策・意見提言(H27.11)

宮沢賢治講演会(H29.12)

コロナ禍で規模縮小しての総会(R2.6)

いわて未来研会長著述、記事等(抄)

◆　平成 22 年度市勢功労表彰状授与式における受賞者代表挨拶(H23. 1. 4)　◆

皆様、新年明けましておめでとうございます。受賞者 31 名を代表いたしまして御礼のご挨拶をさせていただきます。

まずもって、晴れやかな年の初めの市民新年交賀会において、市勢功労者表彰という最高の表彰を賜りましたことに一同感激いたしており、厚く御礼申し上げます。

私たちは、それぞれの分野におきまして、その功績が顕著であるとして、はからずも表彰の栄に浴することとなりましたが、これもひとえに関係の皆様方のご指導とご支援の賜物であり、本席をお借りして改めて心から御礼申し上げます。

奥州市は、五十年、百年の歴史と伝統文化を有する五つの市町村が合併して誕生した市でありますが、早くも 6 年目に入ろうとしております。

市の総合計画基本構想に定める「歴史息づく健康文化都市　産業の力みなぎる副県都」として着実な発展を遂

げておりますことに衷心よりお慶び申し上げます。

今後さらに、新しく生まれたばかりの市としての勢いを生かすとともに、合併前の市町村の伝統文化を大切にし、その均衡のとれた発展を図りながら、着実に市勢を進展させることが肝要と考えるところであります。

そのためには市民の総力を結集しなければなりません。

私たちも、本日の表彰を励みとし、更にそれぞれの立場から市政の発展に力を尽くす決意でございます。

おわりに、本日の受賞を改めて心から御礼申し上げ、奥州市の限りない発展と皆様のご多幸をお祈りし、御礼のご挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございました。(2 分 30 秒)

◆ 故及川勉元江刺市長の葬儀における弔辞(H23.6.29) ◆

梅雨入りした奥州の地は、雨に煙り、紫陽花の紫の色が光を放つ中、及川勉さんが心魂を傾けられた江刺藤原の郷がその中心を占めているようでございます。

今月 23 日朝、一本の電話があり、及川勉さんが亡くなられた様だとの話に、思わず、「ええっー」と大きな声を出してしまいました。最近ご法事でお会いした際には、お元気で、お酒も嗜んでおられ、相変わらずの含蓄のあるお話しを伺ったばかりでした。

誠に残念であり、哀惜の念に耐えない次第であります。ご家族のお悲しみもいかばかりかとお察し申し上げます。

及川勉さんに初めてお目にかかりましたのは、江刺市助役時代であったと思います。私が県庁の市町村担当課の一職員時代です。詳しいことは覚えていませんが、とにかく率直に遠慮のない話し方をされる方との印象でした。

その後、郷里江刺の市長さんということで、親しみと尊敬の念で見守らせていただいておりました。新幹線水沢江刺駅の実現、江刺中核工業団地

への次々の大型企業の誘致、職員定数の大幅削減を中心とする大胆な行財政改革、県内初の産業廃棄物処理施設の立地実現、ヒロノ福祉パーク建設など目を見張る成果を着々と打ち出されるお姿に感嘆の目を向け、応援の拍手をしておりました。

私が課長クラスになった頃、活動が休眠状態になっていた「県庁江刺会」を再構築し、及川市長さんをお招きして盛大に会合を開いたこともありました。

及川さんが、五期目の任期を終えられる頃、盛岡においでになり、市長選出馬を打診されました。大いに迷い、悩みましたが、滝沢村で助役を経験し、村長逝去により職務代理者も経験していた私は、いつか機会があれば郷里のために一肌脱ぐ気持ちも十分ありました。当時の知事さんとも相談し、遂にお世話になることを決めたのでありました。

それにしても行政経験があるのみで、政治・選挙からはむしろ離れるようにしていた私にとっては、ただただ及川市長の用意された組織に乗り、そのご指導を受けて挨拶回りを始め、定められた日程・行事をこなすのみでした。幸いにして無投票当選となりましたが、その御恩は生涯忘れることはできないものであります。改めて深く感謝申し上げます。

江刺市長就任後は、生涯学習センター・図書館建設、市内全域光ファイバー網の敷設、地区センター構想の実現など及川市政の継承と発展を進めたところであります。その間、藤原の郷のロケを中心とした義経ブームで江刺が大賑わいとなったこともありましたが、こうしたことも及川さんのご遺徳の賜物でありました。

やがて市町村合併の大嵐が全国を吹きぬける中、江刺も最終的に奥州市合併に向かうこととなり、私としても住民合意を含めたその大仕事に没頭することになりました。合併後、幸いにして初代奥州市長に就任することが出来、4 年間、合併新市の基盤創りを担いましたが、新市の市政執行におきましても及川さんが築かれました行財政の仕組み、精神が随所に大いに生き、力を発揮したところであります。

改めて在任中、市政発展に尽くされたのみならず、その後の市政隆昌の

基盤を創られましたご功績に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

私がお世話になりました一身上のご恩に関しましては、終生のものとして、重ねて厚く御礼申し上げます。

思いは尽きることを知りませんが、ここに心からご冥福をお祈り申し上げ、また、ご家族への、天上からの限りないご加護を切にお願い申し上げ、お別れといたします。

及川勉さん、どうぞ安らかにお眠りください。お世話になりました。ありがとうございました。

平成 23 年 6 月 29 日

旧江刺市長・前奥州市長　相原 正明

◆ グレーターシェパートン市ジェニー・フーリハン市長夫妻歓迎パーティでの挨拶(H25.11.5) ◆

※ 英訳の上、英語でスピーチ

アン・マカミッシュ市長夫妻と私夫婦(市長宅の庭にて)

ジェニー・フーリハン市長とともに

今晩は ！ グレーターシェパートン市ジェニー・フーリハン市長ご夫妻を心から歓迎いたします。

私は、ジェニー市長さんとは 2007 年 10 月以来 8 年ぶりにお会いします。

当時、メルボルン空港にコクシニアなどの花束を持って迎えに来ていただきました。

歓迎式典や奥州市から持参した桜と紅葉の植樹セレモニーなど楽しく、暖かく歓迎していただきました。

その際、ジェニー市長さんから要請され、私の趣味である俳句を作って発表したことが良い思い出の一つです。

実は私はその 2 年前の 2005 年にもグレーターシェパートン市を訪問しています。江刺市長時代のことです。

当時のアン・マカミッシュ市長夫妻が、江刺市を非公式に訪問されたことをきっかけに、それまで途絶えがちになっていた交流を復活させようと思いました。

江刺市の最後の年であり、奥州市誕生の前年のことです。

アン市長が 7 月に来られ、私が同じ年の 10 月に訪問するという日程でした。その際、アン市長宅にホームスティしたことが良い思い出です。

これらのお話は、私が市長の時すでに写真入りで、ホームページに掲載しています。今日はこれをコピーし、若干の写真を加えて、皆さんに差し上げました。

写真にありますように、隣にいる私の家内も 2 度一緒に訪問しております。

1979 年以来 34 年にもわたる姉妹都市交流が、今後ますます充実することと、ジェニー市長さんご夫妻のご健康を心からお祈りします。

ありがとうございました。

◆ 「県を退職したころ　　奥州市 相原 正明」
― 岩手県友会会報第 93 号(H28.3.8) ◆

岩手県企業局長として

江刺市長選告示日

無投票当選が確定して

この欄の記事としては異例かと思いますが、私の場合は普通の県職員が

選挙に出てしまったという変わった話の持ち主でもありますので、この機会に多少お話させて頂きたいと思います。

平成 14 年に 32 年余お世話になり、私の人生そのもののような県職員を企業局を最後に退職することになりました。郷里江刺の市長選挙に声が掛ったのです。5 期 20 年務めた前市長の後継ということでした。とはいっても地元有力政治家との一騎打ちという前提であり、決断までには七転八倒の苦しみがあったことはお察しのとおりです。

それにしても政治家の家系とは無縁の家に生まれた私に何故受ける気持ちがあったのか。妻の父が都南村長であったこと、滝沢村助役に派遣されていた時期に村長死去により 50 日間職務代理者を務めたことなどにより、県退職後の可能性の一つぐらいの思いがあったことは確かです。

しかし、生計を維持できる家業も無い身で家族を抱えながら中途退職(54 歳)し、やってみなければわからない選挙に出るということは冒険そのものでした。家族の反対も当然です。

それでも「虎児」を得たい想いが強く、遂に「虎穴」に入ったのでした。

退職直後から 3 カ月余かけて江刺の一万世帯を回り、およそ 4 カ月目に無投票当選となりました。結果は吉と出ましたが、後輩の方々には余程条件が整わない限りお勧めしないつもりです。

その後奥州市長職も経て退任となり、現在は貴重な経験と一定の蓄積を還元したいと願い、政経関係のＮＰＯ活動などで忙しくしております。

◆ 元盛岡芸者・料亭小原家女将 故宮代美恵子さんの葬儀における弔辞(H28. 11. 13) ◆

晩秋の盛岡は早くも初雪となり、梅擬の赤い実が雪に生えて艶やかとなる季節を迎えています。

このような中、奥州市に住む私のもとに一通のメールがあり、女将さんの美恵子さんが逝去されたと告げられました。突然の訃報に茫然としつつ、たちまちにして女将さんの思い出が走馬灯のように駆け巡りました。

美恵子

しのぶ

私の県職員時代を中心にその後の市長時代も含めて、料理とお銚子を真ん中に県都盛岡の古き良き文化ひいては岩手の伝統文化を人物評を交えながら、心地よい盛岡弁でお話しいただき、教えていただいたことを思い起こしました。

誠に残念であり、哀惜の念に耐えない次第であります。ご家族のお悲しみもいかばかりかとお察し申し上げます。

女将さんの美恵子さんと初めてお目にかかりましたのは、25 年ほども前の岩手県職員時代で、八幡町の老舗料亭小原家の女将さんとしてでありました。当時は官公庁の接待でしたが、上司のお供で料亭に出向くこともたまにある立場でした。女将さんは、きっぷが良くて話題が豊富で、肝っ玉女将という印象でした。何よりも元売れっ子の盛岡芸者ということに興味がひかれました。

当時、及川和哉さんが「ひだりづま―盛岡芸者いまむかし」という本を出され、早速読みました。

盛岡芸者は、政財界人から社用族まで、どんな客の前でもひととおりの技芸を披露できるようになって一人前といわれた。容姿・容貌より先に、まず歌舞音曲をこなし、茶道や生け花、行儀作法、それに教養も身につけなければならない。そのため、子供の時から師匠のところに通わされ、厳しく仕込まれた。

盛岡芸者の芸の水準は明治年間の常磐津林中(ときわずりんちゅう)の盛岡滞在によって格段に向上したほか、大正年間の平民宰相原敬がたびたび催した園遊会で盛岡芸者が接待役を務めたことによりさらに品格が高まっ

た。

このほか、盛岡には芸妓(げいこ)置き屋がなかったので自前芸者という独立会計の芸者であったこと、明治期の最盛期には 95 人にも達していたこと、芸能を伝承し、政界人を支え、観光ＰＲや祭り行事の主役として時代を担ったのが盛岡芸者であることなどが記されていました。

その本の中で美恵子さんは、昭和３０年頃までに誕生した八幡町の若手芸者 15 人の一人として記載されていましたし、昭和６２年に中三デパートで行われた暖簾の会で踊る姿がカラー写真で掲載されていました。盛岡芸者の嗜みとして、踊りでは藤間流の名取で師範でもありました。

ご本人は冗談交じりに、顔は三枚目だが座持ちとしゃべりでよくお座敷がかかったものですよと話していました。

その後昭和 62 年頃と伺っておりますが、その力量を見込まれ、請われる形で、先ほどの「ひだりづま」の本にも出てくる八幡町料亭小原家の七代目女将となったのでした。

女将となってからは政財界、官公庁などの幅広い人脈を生かして繁盛し、ある時期から料亭を巡る環境が厳しさを増し、閉店する店がある中でも健闘し、平成 12 年に女将を辞するまでおよそ 14 年間立派に経営し活躍されました。

その後は悠々自適の生活を基本としながらも自宅の一角を扇亭という店の形にして、古くからのなじみの客が憩う場を設けられました。私も県職員の最後の頃、企業局長を退任する際に送別の宴をこの扇亭で開かせていただきました。そして選挙を経て江刺市、奥州市に戻ってからも、本当にたまにではありましたが個人的に顔を出させていただき、かつての政治家の話などを聞かせていただいたところです。

「あんや、よぐ、おでゃんスたごと」という盛岡弁とともに思い出は尽きませんが、改めて、これまでに頂いたご厚誼・ご指導に感謝申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。

女将さん美恵子さんにおかれましては、一人娘である同じく盛岡芸者としての活動経験もある喪主しのぶさんをはじめ、ご家族を残しての旅立に

心残りは計り知れないことと存じます。

ご家族への、天上からの限りないご加護を切にお願い申し上げます。

美恵子さん、どうぞ安らかにお眠りください。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

平成 28 年 11 月 13 日

元県職員・前奥州市長　相原　正明

◆ 東北大学法学部卒業祝賀会における同窓生先輩としての祝辞―平成 28 年度卒業生に贈る ―(H29. 3. 24) ◆

※　東北大学法学部同窓会会報第 44 号(平成 29 年 5 月 30 日)に掲載。岩手支部長(前岩手県奥州市長)相原正明(昭和 45 年卒)として。場所は仙台市内ホテル。

皆さん、こんにちは。法学部のご卒業そして法学研究科ご終了誠におめでとうございます。

ただ今ご紹介いただきました相原正明と申します。現在、法学部同窓会岩手支部長を務めさせていただいております。私がこうした祝辞の栄をいただきましたのは、支部長の一人ということと、選挙という関門を経て市長になった(法学部同期では私だけ)という異色の経歴のためかなと思っています。

貴重な時間ですので私の経歴、体験の中から感じたことを申し上げ、まさにこれから人生を切り開かれる皆さんの参考に供したいと願っています。

簡単に自己紹介させていただきますと、卒業後すぐ岩手県庁に入り、50代の半ばまで 32 年ばかり勤め、企業局長という部長級のポストにあった54 歳の時に郷里の江刺市長選挙に出るため、勧奨退職年齢の 4～5 年前に退職しました。

江刺市長選挙は、予定された方が立候補しなかったため、無投票当選となりましたが、平成の市町村大合併の嵐の中で、3 年後には合併で市長を失職し、再び合併新市の奥州市長選挙に立候補しました。三つ巴を制する形で合併前の最も大きい市の市長、元衆議院議員を破って当選し、1 期 4 年務めました。しかし、2 期目に挑戦した際、その合併前の最大規模の市の出身の元市議会議長との一騎打ちとなり、再選はなりませんでした。

振り返りまして、自分としては県の一般職の最高ランクに到達し、歴史に名を遺すともいえる最後の江刺市長、初代の奥州市長を務めさせて頂いたことを誇りとしています。

その後は市長時代の人脈を生かした NPO 法人の代表等を務め、その中で松下政経塾の小型版のような政治家、地域リーダー人材の養成なども行っています。

こうした活動を振り返りつつ、後輩の皆さんにお伝えしたいことを短い言葉で印象深く伝えれたらと思います。

一つ目は、「守・破・離」です。古来からの日本の武道、茶道などの子弟関係の在り方の一つとされているものです。皆さんが世に出て何を期待され、何をどのようにしなければならないか、最初の関門が待ち受けます。大きな組織の一員であっても自営業であっても同じと思います。まず学んで、伝統的考え、やり方を一流レベルにまで身につけることが肝要です。周りの評価は確固たるものになります。やがてこうした自信と己の信念に基づいて、改善し、改革する、即ち破らんとする意欲が出てきます。そして旧来の道、やり方から離れるのです。常に失敗と隣り合わせですが、自分を大きく、脱皮・成長させることに繋がります。

二つ目は「早い段階で戦略(基本的な中長期の目標・計画)を練り、それに沿って戦術(個別具体の対処術)を磨き、実行すること」です。

まずは、仕事の面でそのようなことが大切なのは言うまでもありません。しかし、もう一つ大事なことがあります。それは限られた人生の中で自分自身をどう立派に育て上げるかということです。東北大法学部を卒業したということは、同じ生まれの同級生と横一線ではありません。既に大きく前に出ています。誇りうる位置にいます。しかし、あくまでマラソンでいえばまだ4分の1の地点です。勝負の行方はこれからです。このような戦略目標があるなしで時間とともに大きな差が出ます。たまに訪れる運―幸運の女神―には前髪があって後ろ髪はないと言われます。戦略のない人は前髪を待ってましたとばかりに捕まえることはできません。NHK の朝ドラ「べっぴんさん」の主題歌をミスターチルドレンが歌っていますが、その歌詞にある「たとえば百万回のうちたった一度ある奇跡。下を向いてばかりいたら見逃してしまうだろう」も同じ趣旨に繋がります。

三つめは「判断に迷ったときは基本に立ち帰る」ということです。平成の市町村大合併の嵐が吹き荒れ、合併の組み合わせが大揺れに揺れ、結局は賛否両論の中で市長の決断にかかるという事態となりました。発表せざるを得ない時間が迫り、マスコミが待ち構える中、朝までほとんど眠らずに過ごした夜を思い出します。正直なところ、自分でも判断が付きかねる中、最後に浮かんだ言葉が「迷ったときは基本に立ち帰る」と言うことでした。それで決断し発表した以上は、もはや迷うことはありません。対外的には市議会はじめ大きな反対も予測されますが、己の心の中はすっきりとし、むしろ楽になりました。ことの大小を問わず、皆さんもこういう場面に必ず遭遇することでしょう。

以上申し上げましたが、その人の人生はそれぞれの人生観に基づき自由に築きき上げていくものです。そんな考えもあるんだという風に参考にしていただけたらと思います。

最後に同窓会支部長として同窓会は自分の人生を充実させていくうえで貴重な場であることを述べさせていただきたいと思います。様々な職業、職場の先輩と後輩が交流し、互いを認識し合うことは無形の力を与えてくれます。知っている人には心を開き、情報を含めなんでもサービスしたく

なります。言い換えれば人に知られていれば実に仕事がやりやすく、思いがけないチャンスに恵まれるというものです。「人を知り、人に知られる大切さ」です。

とりとめもないお話をしましたが、皆様方の洋々たる前途を祝し、お祝いの言葉といたします。

◆　叙勲祝賀会における受章者（相原正明）御礼のことば（H30. 8. 4）　◆

1　皆様、本日はお暑い中、遠路この様に大勢お集まりいただき、大変ありがとうございました。

また、先ほどは岩手県知事様はじめご来賓の方々から身に余るお褒めのお言葉と共にお祝辞を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

まずもって、この度の春の叙勲に際しまして旭日雙光章の栄に浴しましたところ、伊藤正次様をはじめ発起人の方々の御発意により祝賀の会を催していただきました。本当にお陰様でございました。

この度の祝賀行事に際しましては、これまでご恩やご指導を賜りました沢山の方々にご案内を差し上げさせていただきましたが、全体の人数の制約や私の配慮不足により、ご案内出来ないでしまった方々も多くあり、申し訳ない想いであります。今後なんらかの形で感謝の気持ちをお伝えしたいと考えております。

2　さて、この度は思いがけなく春の叙勲で受章者とならしていただき、主として市長として働かしていただいた地方自治功労と承知しております。

かえりみまして、この栄誉を賜りましたのも市民の皆様をはじめ、関係

各位のご指導・ご支援の賜物であり、改めて厚く御礼申し上げます。

また、内にありましては家族の支え、特に妻の支えが無ければ何ともなしえなかったところであり、あまり普段お礼を言う機会もありませんでしたが、この場をお借りして深く感謝いたします。(妻に頭を下げる)

3　私は、先ほど知事さんのご祝辞でも触れていただきましたが、32 年余にわたり岩手県職員として社会人としての基礎を身につけさせていただき、地方自治行政のあるべき姿を学ばせていただきました。

本日盛岡からかつての上司・先輩の方々にご列席頂いておりますが、岩手県庁で鍛えていただきました基礎があって、市長にも推挙され、また、市長として市町村合併を含む大仕事をすることが出来たと考えております。このご恩に改めて感謝申し上げます。

それにしても全く政治家に縁のない家に育ち、政治にはむしろ距離を置くようにしている公務員がなぜ市長選に挑戦できたのかと考えることがあります。私の妻美智子の父が都南村の村長をしていたことや、滝沢村助役時代に村長の死去によって 50 日間も村長職務代理者を務めさせて頂いたことが要因ではあります。そしてやはり行政政策の最高決定者、最高責任者の仕事がしてみたいと思い始めていたかもしれません。

4　ご縁をいただき、まったく未知の世界ながら市長選に踏み込み、多くの方々のご指導・ご支援のもと無投票で江刺市長に就任させていただきました。その頃は小泉内閣のもと平成の市町村大合併の嵐が吹き荒れており、合併をすべきか、どことすべきかの厳しく苦しい選択を求められる日々であったと思います。歴史上 1200 年も一緒になったことのない胆沢の中心と江刺の中心がいわば核融合するような合併に舵を切りました。近年の胆江は一つの基本的流れがあり、私の信念の一つである迷ったときは基本に立ち帰るを実践することになりました。この間の本日お見えの元胆江地域の市町村長さん方のお導き、ご協力に深く感謝いたします。

奥州市合併実現により、私は約 50 年続いた江刺町・江刺市の最後の市長の役割を担うことになり、江刺の将来が必ずプラスに転ずるように方策を講ずる日々であったと思います。この思いは今後とも消えることはありません。

5　新奥州市におきましては、初代奥州市長の重責を担うこととなりました。「副県都」構想の下、県下第二の力強い都市づくりとともに新市の基盤創りを務めさせて頂きました。

旧五市町村の伝統を生かしながらその均衡ある発展を目指し、「合併に対する住民の戸惑いと不安、不満を夢と希望に転化させる」ため奔走し、新市の一体感の醸成に努める毎日でした。

なかでも、新市の財政を大きく揺るがす岩手競馬の存続問題の解決、岩手宮城内陸地震への対応は忘れることができません。

道半ばのものが多々ありましたが、一定の基礎レールを引くことが出来たと思っており、今後さらに奥州市が合併時のエネルギーをも活用してさらに発展することを常に願っています。

6　ここで、本日皆様にお上げした本について申し述べます。私にとっては 5 年前のものに続く第 2 冊目の出版物です。奥州市長初年度(H18)に市長として記述したもの、庁議などで発言した内容等を写真入りで表したものです。市の最高責任者である市長が基本的に市の公務に関して自ら記したものであり、いわば正史を補う資料と言えると思います。発行は本日付で皆様が初めての読者ということになります。今後、各図書館や自治体、政治家等にお贈りすることにしています。

自費出版、非売品、400 部限定出版ですが、希望される市民等の方には閲覧できるようにいたします。

「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す、転じて人は死して文字を残す」が座右の銘でもあります。第 3 作も遠からず出したいと今から構想しております。

7　それでは、人生これに過ぎるものはない経験と役割を与えていただき、改めて皆様のお導きに深く感謝申し上げます。

今後は、いささかなりともご恩に報いるべく微力を尽くす所存でありますので、何卒変わらぬご指導・ご交誼を賜りますようお願い申し上げます。

ここに、皆様の今後益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、御礼のことばとさせていただきます。

◆　父故相原正毅葬儀における御会葬御礼状(R2. 1. 4)　◆

(注)原文に句読点を付すなどしています。

謹啓　亡父相原正毅儀(享年百歳)、葬儀に際しましてはご多忙のところ御会葬御焼香を賜り且つ御丁重なる御厚志を戴き誠に有難うございました。

故人の生前賜りました御厚情に対しましても厚く御礼申し上げます。

お蔭様で葬儀を滞りなく相済ませることができました。

叙勲受章記念写真(H21.11)
父正毅、母ミツ

父正毅卒寿の祝い(H23.9)
正毅、妻、息子夫婦、娘夫婦

父正毅は、相原一族の高齢の最長不倒距離を構築して安らかに品格を保持しつつ旅立ちました。

若くして獣医将校として満州に赴任し、後に内地防衛のため九州の部隊に配属となり　終戦で郷里に戻りました。

その後県職員となり、岩手県畜産課長の要職に登り、後年叙勲の栄に浴する基となったところです。

妻ミツはじめ家族を慈しみ、子に対しては余程でなければ口を出すこともなく、十分過ぎるほどの支援を行い、自由に進ませてくれました。

酒も楽しみ、釣りにも出かけるなど人生を楽しみつつ、両親を支え見送り、家をしっかり守り、家族を路頭に迷わせることはありませんでした。

特筆すべきは文筆活動であり、生涯にわたり 7 冊の本の出版を手掛け地域の歴史文化の承継に貢献できたと思います。

本当に素晴らしい人生であったと思いつつ、家族を代表して深甚なる敬意と感謝を申し上げたところでございます。

茲に改めて皆様に御礼の御挨拶を申し上げますと共に、今後とも宜しく御交誼下さいますようお願い申し上げます。

謹言

令和 2 年 1 月 4 日

喪主　相　原　正　明

プロフィール

昭和 23 年 3 月 1 日	岩手県江刺市愛宕字橋本に相原正毅(現奥州市江刺出身)・ミツ(現奥州市胆沢出身)の二男として生まれる
同 35 年 4 月	江刺市立愛宕小学校を卒業し愛宕中学校入学
同 36 年 4 月	中学 2 年時に盛岡市立上田中学校に転校
同 41 年 3 月	県立盛岡第一高等学校卒業
同 45 年 3 月	東北大学法学部卒業
同年 4 月	岩手県職員採用。企画部企画調整課　(県勢白書執

	筆）22 歳
同 49 年 4 月	農政部農政企画課　（農地転用・農地改革訴訟担当）　26 歳
同 55 年 4 月	総務部地方課行政係主任　（市町村行政担当）32 歳
同 57 年 4 月	教育委員会県立学校課管理主事　34 歳。この間、　和 60 年 4 月～9 月自治大学校派遣
同 61 年 4 月	教育委員会義務教育課長補佐　（市町村教育委員会担当）38 歳
同 63 年 4 月	総務部地方振興課長補佐兼選挙管理委員会副書記長（市町村行政・選挙担当）40 歳
平成 2 年 4 月	環境保健部医務課長補佐　（医療･人事･予算担当）42 歳
同 4 年 4 月	滝沢村助役　（盛岡市西隣の人口約 4 万人の村助役として 3 年。この間村長死去に伴い、50 日間、村長職務代理者経験）44 歳
同 7 年 4 月	企画調整部資源エネルギー課長　（土地利用･エネギー・水資源担当。世界地熱会議誘致実現）47 歳
同 9 年 4 月	農政部農業経済課長　（農協・農業共済・農業金融担当。債務超過農協救済スキーム樹立、農業共済組合大型合併推進）49 歳
同 10 年 4 月	教育委員会教育次長　（総務・財務・文化・社会教育担当）50 歳
同 11 年 4 月	農政部次長　（農政企画・農業経済・畜産担当）51 歳
同年 10 月	企画振興部次長　（企画調整・情報化・科学技術ほか担当）51 歳
同 13 年 4 月	地域振興部次長兼地域企画室長（地方振興局･市町村－特に合併問題・地域づくり・NPO・ボランティ

	アほか担当）53 歳
同 14 年 4 月	企業局長　（管理者として電気事業・工業用水道事業を経営）54 歳
同年 10 月 5 日	県退職(32 年 6 ヶ月在職。江刺市長選出馬のため)
同 15 年 2 月 9 日	江刺市長選挙において無投票当選。55 歳
同年 3 月 13 日	江刺市長就任(1 期目)
平成 15 年度から	「未来の都市を創る市長の会」座長(全国 10 人程度。初代座長)
平成 16 年度	全国市長会理事 総務省「地域振興制度のあり方に関する基礎調査」アドバイザリー会議アドバイザー
平成 17 年度	岩手県市長会副会長
同 18 年 2 月 20 日	奥州市合併により、江刺市長失職
同年 3 月 19 日	奥州市長選挙において当選。初代の奥州市長に就任(1 期目)。翌日初登庁。58 歳
同年 12 月 15 日	東北直轄ダム事業促進連絡協議会長就任
平成 20 年度	岩手県市長会副会長
同 22 年 3 月 18 日	奥州市長退任(3 月 14 日執行の市長選で落選)。退任後、相原まさあき政経事務所代表、政策アナリストとしての活動を開始。62 歳
同年 6 月 26 日	いわて未来政策・政経研究会会長に就任(発足時の会員数 239 人・団体) 平成 23 年 9 月 28 日特定非営利活動法人(NPO 法人)に移行。会員数のピーク 320 人(H24.2)
同年 7 月 15 日	行政書士登録。相原まさあき行政書士事務所開設
同年 3 月以降	辻・本郷税理士法人盛岡支部顧問、社会福祉法人暁泉会暁学園顧問、社会福祉法人宇宙心会顧問ほか数法人顧問就任
同 24 年 7 月 13 日	東北大学法学部同窓会理事・岩手支部長就任。64

	歳
同 25 年 5 月 14 日	地方自治に日本国憲法の理念を活かす岩手県市町村長の会代表就任。65 歳
表　彰　歴	★　俳誌樹氷新人賞 平成 6 年 8 月 21 日　樹氷俳句会主宰 ★　市町村合併功労表彰 平成 18 年 5 月 20 日　総務大臣 ★　第 2 回マニフェスト大賞(ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟・同首長連盟主催)首長部門審査委員会特別賞受賞　(東国原宮崎県知事と 2 人受賞) 平成 19 年 11 月 9 日　マニフェスト大賞審査委員会委員長 ★　市勢功労者表彰 平成 23 年 1 月 4 日　奥州市長 ★　叙勲(地方自治功労) 平成 30 年 4 月 29 日 旭日双光章 ★　NPO 法人表彰 NPO 法人いわて未来研創立十周年記念表彰受賞(発足以来理事(会長)在任) 令和 2 年 11 月 28 日 NPO 法人いわて未来研会長
主 要 著 書	✪「相原まさあきのメルマガ―江刺市長時代」A4 版、60 頁、平成 25 年 7 月 1 日 300 部発行) ✪「相原まさあき著述集Ⅱ―奥州市長初年度のルマガほか」(A5 版、122 頁、平成 30 年 8 月 4 日 400 部発行) ✪「相原まさあき著述集Ⅲ―随筆・エッセイ―初代奥州市長 2 年目の軌跡・滝沢村助役心象

	スケッチほか」(A5 版、226 頁、令和 5 年 2 月 26 日発行
現　住　所	〒023-1131　岩手県奥州市江刺愛宕字橋本 119 番地
Tel&Fax	0197-35-2134(Fax 兼用)　携帯: 090-7323-2749
E-mail	ma230301@pon.waiwai-net.ne.jp
ホームページ	http://www.pon.waiwai-net.ne.jp/~ma230301/
家　族	同居: 妻 長男夫婦・孫 3 人(熊本県大津町)、二男夫婦・孫 2 人(盛岡市)
趣　味	囲碁(日本棋院五段)、俳句(県俳人協会会員、元俳誌樹氷同人)、ゴルフ(ハンディピーク時 27 ?)

孫とのひととき(H19.5.3)

あとがき

令和元年 12 月に父正毅が逝去しました(享年百歳)。父は軍人(獣医将校)、県職員(獣医・本庁畜産課長など)を経て、帰郷後は地元の老人クラブや公民館活動等に尽力しましたが、特筆すべきは生涯に 7 冊の本(共著を含む)を世に出しました。最後の出版「米寿のあゆみ」は 88 歳の時でした。

私がモノ書きを苦にしないのは遺伝の賜物と思いますが、子の私はまだ 3 冊目と大きな格差があります。父に追いつくよう更に精進・努力するつもりです。

本稿をスタートさせておよそ 4 年 6 ケ月、ほぼ毎夕食後 30 分程パソコンに向かいました(日中は仕事等)。これは苦痛ではなく、己の人生を貫く芯棒のような有難い時間でもありました。

今は、早速 4 冊目に向けて歩みを始めたいと思っております。

最後に、この著書を故父正毅に捧げます。

相原正明著述集Ⅲ

随筆・エッセイ

― 初代奥州市長２年目の軌跡・

滝沢村助役心象スケッチほか ―

令和 5 年 2 月 26 日発行

編集・発行　相原まさあき政経事務所代表
相原　正明

〒023-1131 岩手県奥州市江刺
愛宕字橋本 119 番地
TEL& FAX　0197－35－2134
E-mail:ma230301@pon.waiwai-net.ne.jp
URL:http://www.pon.waiwai-net.ne.jp
/~ma230301/

カバー印　(有)江刺プリント社
刷・製本　岩手県奥州市江刺大通り 6-2
TEL 0197-35-4639